

ハザン省日越友好植林事業第二期

JVPF 会報別冊 3号
2024年6月30日
日中友好会館助成事業(第三国)

～日本からベトナムから植林ボランティア～

ベトナム北部ハザン市のフオンドー社で、ベトナム国の「2021年～2025年を期間とする、10億本植林プロジェクト」と日越外交関係樹立50年を記念し、ハザン省日越友好林事業を開始しました。この事業は日中友好会館・国際連帯事業(第三国)助成を受けたもので、2022年度(2022年12月開始)を第一期として第三期まで予定されています。

去年の第一期に続き、今回、第二期事業(2023年12月開始)の開工式が行われました。



上：第二期事業地(ハザン市フオンドー社ター集落)で記念植樹(2024/1/29)
左：シナモンの苗木。二期事業では3.5haにシナモンの木が10,500本植林される。

・ベトナムは、南シナ海に面したインドシナ半島東部に位置し、南北に細長い国で、気候は温帯から熱帯にまたがり、降水量が多く、地形も起伏に富み、この結果非常に多様な森林が分布している。

・現在「2021年～2025年を期間とする、10億本植林プロジェクト」が地球温暖化防止や災害対策などの目的で提唱され、自然環境の維持のため国土における森林面積を42%で維持していくことが目指されている。同時に「10億本植林プロジェクト」は林業や木材加工業によるベトナム経済の活性化によってベトナム社会の発展に寄与することが期待されている。



日越緑の架け橋

NPO 法人日本ベトナム平和友好連絡会議 (JVPF)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町316 菊地ハイツ 101
TEL.03-3268-4387 FAX.03-3268-6079

本会報は事業主催(JVPF)の植林プロジェクト特集号です。

苦難を乗り越え一期から二期へ

第二期開工式参加植林/ボランティア行程

●1月27日

羽田)⇒ハノイ ハノイ泊

・午後便で羽田空港出発し、深夜、ハノイ・ノイバイ空港着。ノイバイ空港近隣のホテルへ

●1月28日

ハノイ⇒ハザン市 ハザン市泊

・早朝、ホテル出発しハザン市へ(6h30)
・途中、プロジェクトカウンターパートのハザン省政



府(外務局)とバックアン郡で合流し「枯葉剤被害者支援プロジェクト」及び「植林プロジェクト」について意見交換

●1月29日

ハザン市⇒植林事業地⇒ヴィスエン郡 ハザン市泊



上: 一期事業地入口に立つプロジェクト地案内板
下: 一期事業完了評価式が行われた。植栽現地を視察予定だったが濃霧のため視察は取りやめとなった。(2024/1/29)



第二期事業は苦難の船出でした。

事業地で爆弾残存物が見つかる

昨年の第一期行地の整地作業中、爆弾残存物が発見されその安全精査のため事業が一時中断しました。その後一期目は無事遂行されたものの、一期事業地に隣接する第二期事業地の安全精査が急峻な地形から完全に終わらず第二期事業地を当初予定より縮小することになりました。その後、住民たちの懸念の声が止まらずさらに事業地の移転となりました。

植栽樹種にかんしても当初予定のスターアニス(八角)からシナモンに変更することになりました。理由は同一樹種植栽による天候及び経済的リスクを避けたいとの住民の意向に配慮するためです。

森林火災発生で森林保護局スタッフ死亡

何とか、第二期をスタートさせたものの、3月~4月期、ベトナムは猛暑の影響で森林火災が全国的に発生しハザン省も火災に見舞われました。《2024年4月26日、暑さの影響で、ヴィスエン郡ラオチャイ、シンチャイ、フォンティエンの3つの社(コミュン)に隣接するフォンクアン-タイコンリン特別用途林(ハザン市フンドンー社に隣接)で大火災が発生した。ハザン省は1,000人以上の人々と軍、政府救護隊を動員して消火活動に参加した。4月27日までに火は鎮火した。しかし、消火活動に参加した過程で、ハザン省森林保護局の職員2人が死亡し、約20ヘクタールの森林が焼失した》(ハザン外務局レポートより)

ヴィスエン郡はJVPFが少数民族学生へ奨学金支援している地区で植林ボランティアにも学生たちが一緒に参加してくれているところです。JVPFは森林保護局スタッフの死亡に接し外務局を通して遺族に弔意を伝えました。(記:2024年6月30日)

・午前、ハザン市フンドンー社の第一期植林事業地で「事業一期完成評価式」、その後第二期事業地に移動し「第二期開工式」及び記念植樹をハザン省林業保護局、外務



上: 第二期開工式模様。ハザン省林業保護局、外務局、住民、学生ボランティアらとともに

右：ハザン省林業保ダオ ツィ
トアン局長の挨拶



局、フンドー社人民委員会、
タン集落責任者、学生ボラン
ティア、日本ボランティア等で実施



上：少数民族寄宿学校の社会奉仕隊の学生たち
下：日本のボランティア、学生ボランティア、森林保護局、外
務局の各代表らで記念植樹



・29日昼食後、グイスエン郡少数民族寄宿学校等訪問/
植林ボランティア参加の学生たちの学校で交流



上：参加者角山さんの書道の披露は“テト”前で、いつも大人
気



2024 春訪問団

日越友好植林

<日越緑の架け橋> に参加して

山本 利治(東京)

昨年の第一期事業に引き続き参加させていただきました。

この事業はハザン当局と住民がベトナム政府の提唱した「10億本植林プロジェクト(2021年~2025年)」を効果的に実施することによって、荒地の緑化、地球環境生態系の保護、地域の林業経済の発展、促進に役に立っています。

ところで、第二期事業の予定地の変更がありました。一つの理由として爆発物(不発弾)の残存の問題だそうです。枯葉剤被害者の問題もそうですが、ここでも戦争の爪痕が残っているのだと感じました。

さて、当日1月29日はあいにくの雨のスタート。雨の止むのを待って曇り空の中植林地に向かいました。第一期事業地の視察、看板記念式典を行いました。この式典にはハザン省森林保護局のダオ ツィ トアン局長、外務局の副局長、フンドー社(社=村らしい)の村長、他多数の人が参加して盛大に催されました。ハザン省当局および住民がこの事業の促進に力を入れているのがわかります。

この後、第二期事業地に場所を移し式典の後、地元の高校生たちと一緒に植樹しました。第二期では地元の希望により樹種がスターアニスからシナモンに変わり、事業面積も6haから3.5haになりましたが、植樹本数は10,500本、一期目と合わせて20,500本になる予定です。数年後に植林した樹木が成長して豊かな環境になることを楽しみにしています。

最後に、この事業にJVPFが参画していることはとても意義のあることだと思います。また、この植林プロジェクトによって、日本とベトナムの友好関係がより親密になることを願っています。

(記 2024年3月1日)

※写真は、奨学金支援している学生と談笑する山本さん(2024年1月29日)



●1月30日

ハザン市⇒ツエンクアン市 ツエンクアン市泊

- ・午前中、ハザン外務局担当者とJVPF担当で今後の植林事業について会議
- ・その後ハノイに向け移動。途中のツエンクアン市で宿泊

●1月31日

ツエンクアン市⇒ハノイ市 ハノイ市泊

- ・ハノイ到着後、カウンターパートのハザン省外務局(友好委員会)の上部団体のベトナム友好員会連合(ベトナム日本友好協会)を訪問予定が、彼らの都合で中止。ホテルで挨拶のみ

●2月1日

ハノイ・ノイバイ空港⇒羽田空港

- ・早朝便で帰国へ



ベトナム北部とハザン省の位置

トピックス 森林火災消火活動で職員 2 人が殉職

ハザン日越友好植林事業プロジェクトの実務を担当しているハザン省森林保護局職員 2 人が 2024 年 4 月 26 日森林火災発生時の消火活動で殉職しました。JVPF はお悔やみの手紙を送り、遺族に届けられました。

場所は、ハザン省ヴィスエン郡(植林事業地フォンドー社に隣接)のラオチャイ、シンチャイ、フォンティエンの 3 つの社に隣接するフォンクアン - タイコンリン特別用途林。ハザン省は消火活動に 1,000 人以上の住民と軍・政府機関を動員し 4 月 27 日までに鎮火させましたが、約 20 ヘクタールの森林が焼失。原因は昨今のベトナムで頻発している熱波による自然発火とみられています。

ヴィスエン郡は JVPF が奨学金支援事業をおこなっている地域で、ここの少数民族寄宿学校の学生たちは植林ボランティアにも参加しています。

ハザン日越友好植林事業 技術者派遣団報告会～ ZOOM で実施

課題山積みだが、日越友好の一助へ



上：画像など使用し説明する杉村政彦さん。
下：ZOOM 報告会の模様

去る 5 月 18 日、東京で表記の報告会が開催されました。当初は第一期事業地視察で 2023 年 7 月、ハザン省現地に出向いていただいた杉村政彦さん(元林野庁北海道森林管理局上川南部森林管理署 首席森林官)に会



場でお話を伺う予定でしたが不慮の事態で不可能となり急ぎよ杉村さんが在住される北海道と繋いで ZOOM での報告会となりました。

報告内容はおおむね以下の出張報告「報告概要」に基づき行われました。

- カウンターパート：ハザン省外務局
- 事業地：ハザン省ハザン市フォンドー社
- 事業規模：一期目 5 ha、10,000 本 二期目 3.5ha、10,500 本 三期目 7 ha、14,000 本
- 樹種：一期目スターアニス、二期目シナモン、三期目未定
- 事業時期：一期目 2023 年 1 月～12 月 二期目 2024 年 1 月～12 月 三期目 2025 年 1 月～12 月(三期目は助成金中止)

報告概要：

- ・植付を行った 200 本の内、ランダムに 10 本を選抜し、現在(7/11 時点)の苗長と生長量(伸長)を測定した。一見して生育は良好との印象を受けた。苗長の計測結果も、このことを裏付けるものとなった。
- ・外務局より植林事業地へ通じる既設の作業道は路面整正在行き届いていないことから、整地・拡幅が農民のボランティアにより行われたことが報告された。日本側からは助成対象として基盤整備のための作業道開設・整備を認めていること。作業道整備の意図するところは補植、灌水、下刈などの保育作業のみならず、将来、結実したスターアニス(八角)を収穫・運搬することを念頭に入れて、路線の開設とメンテナンスが必要と説明をした。同時に、苗木の購入・運搬、現地における植付に至るまでの苗木管理(厳選と乾燥防止等)を申し入れた。
- ・植付状況について、以下検分し問題点は指摘してきた。
 - ①枯損した苗木の上端が、刃物でスパッと切られたように鋭い。林業局職員によれば、下刈りの際に誤って植栽木まで刈ってしまったもの(人為的なミス)だとのこと。→下草刈りに際し雑草の繁茂がおびただしいことから、使用する刃物の取り扱いを適正に行い、苗木への損傷・ヒューマンエラーを防止すること。そのため苗木に明瞭な目印を付けるなどの工夫を提案する。
 - ②植栽箇所と思われるが、枯損含めて植栽木の形跡がない箇所が 1 箇所あった。おそらく、植え忘れとのこと。→植栽列と苗木本数の管理など、ミスを防ぐ工夫が必要。
 - ③植栽木の根元付近が少し凹んでいる。根腐れの心配はないのか？→林業局職員によれば、水はけ良好で、水がたまる心配はないとのこと。植穴を深く掘りすぎない注意もしているとのこと。
 - ④急傾斜地であることから階段造林となることを提案。畝のつくり方、水平段切りを確かなものにしながらか作業が必要と所見を述べる。(技術者派遣出張報告より)